

トホクのズッキーニ栽培方法

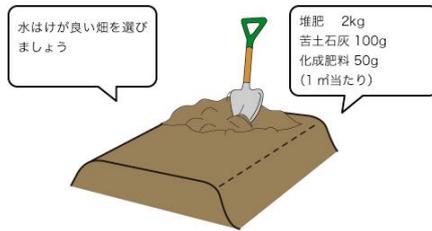
発芽適温：25～30℃ 生育適温：20～30℃
 土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；少ない

1. 作物特性

ズッキーニは、つるの伸びないカボチャの仲間です。栽培するのに広い場所が必要なく、プランターでも栽培できる手軽な野菜で、アブラムシとうどんこ病に対して予防が必要ですがその他は特に難しい管理はありません。生育が早く、特に果実の肥大速度が速いことから、とり遅れに注意が必要です。また人工授粉のために数株以上作ることもポイントです。

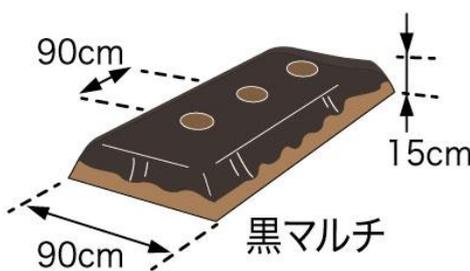
2. 畑の準備

マルチを張ると雑草防除と地温確保、土壌水分保持に有効です。アブラムシの飛来を少なくするためにシルバーラインの入った黒マルチもおすすめです。



3. タネまき・植えつけ

直接畑にタネをまくこともできますが、通常ポットにまいて苗を育てます。直径10～12cmのポットに深さ2cm位にタネをまき、発芽したら間引いて本葉3～4枚の頃に植えつけます。育苗中に肥料が切れることの無いように薄めの液体肥料をやると良いでしょう。



植えつけた後、遅霜の恐れがあるときはホットキャップなどを利用します。



4. 栽培管理・収穫

節間は非常に短いとはいえ、徐々に伸び上がり、茎が倒れる場合があります。しっかりとした支柱を添えると安定し、風などの被害を受けにくくなります。生育初期は特にアブラムシの被害を受けやすいので、農薬などを適切に使って予防します。



果実が成り始めたら1株当たり30gの化成肥料を施します。追肥は株の状態を見ながら7～10日間隔で行います。雌花が開花し、人工授粉してから4日前後で長さ15～20cm位の収穫できるサイズになります。



雄花よりも雌花の方が先に咲き始めます。雄花が咲き始めたら、雄花の花粉を雌花に人工授粉させてやると着果が確実になります。

収穫は株を傷つけないようにハサミで切りとって収穫します。気温が高いと肥大も早いので注意が必要です。収穫が遅れるとたちまち果実が大きくなります。とり遅れた果実も料理に使用できますが、株の勢いがなくなって連続して着果しなくなります。収穫適期の果実は約20cmの大きさです。



春まきの場合

栽培例	● まく時期		■ 収かく期									
地域/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地												
中間地												
暖地												

秋どりの場合

栽培例	● まく時期		■ 収かく期									
地域/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地												
中間地												
暖地												